

新たな希望を胸に旅立つ

各校で卒業式

洞爺村として最後の卒業式が三月に各校で行われ、在校生や父母、教職員、来賓の方々が見守る中で、洞爺小学校十四名、成香小学校一名、洞爺中学校十名、洞爺高校二十六名の児童生徒が卒業証書を受け取りました。

洞爺高校は一日に行われ、代表者の答辞で、初めての寮生活や学校生活への戸惑いやだんだん皆となれて生活できたこと、だめなことはだめ、良いことは良いと担任の先生から学んだなど三年間の思い出を述べていました。



洞爺高校での卒業証書授与式



在校生の贈る言葉を受ける木下くん

成香小学校は閉校式と同日の十一日に行われ、最後の卒業生となった木下龍規君は在校児童から「野球を教えてくれたり、やさしくしてくれてありがとう」などの言葉を贈られ、「とうや小学校に行っても友だちをたくさんつくってください。ほくも思い出や教わったことを忘れず洞爺中学校で頑張ります。」と元氣よく応援していました。

洞爺中学校は十五日行われ、義務教育を終えそれぞれの生徒が新たな希望を胸に旅立ちました。

洞爺小学校は十八日行われ、卒業証書を受け取った後、一人ひとりが小学校生活での思い出や中学校での勉強や部活動への抱負を発表し、最後に参列者全員が校歌を斉唱しました。

除雪ボランティア

洞爺中学校生徒ら

二月一日、洞爺中学校（太田博之校長）の生徒約二十名ほかボランティアセンター有志の皆さんが、今冬の大雪で除雪に困っていた独居高齢者宅の除排雪ボランティアを行い、喜ばれました。

事前にボランティアセンターや役場が、雪で困っている高齢者宅を調査し、この日は中山英雄宅の除雪が行われました。

洞爺中学校では、除雪ボランティアを毎年実施しており



屋根や軒下の除排雪に精を出す
洞爺中学生たち

今回も生徒会新聞などの呼びかけに応じた吹奏楽部、テニス部、卓球部の部員などが授業終了後、中山宅にスコップなどを持参し、除雪で汗を流しました。

生徒たちは、玄関先や軒先に降り積もって固くなった雪山を切り崩し、スノーダンプで運び出した後、屋根の雪を落とす作業を熱心に繰り返していました。